

令和4年度第1回 総合戦略推進会議（書面開催）に係る委員からの意見と市の考え方等について

(2) 推進交付金の進捗状況

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|--------|---|---|
| 1 | 黒澤尚委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト コロナ禍にもかかわらず各種事業の効果により「大曲の花火」ブランドが確実に定着しつつあると思います。</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト コロナ禍で多くの事業が中止となったが、健康志向は高まっていると思われ、感染リスクの低いウオーキングイベントなどの実施回数を増やしてはどうかと思います。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト コロナ禍の影響により、開催中止が余儀なくされたイベント等も多々ありましたが、そうした状況下でもウイズコロナに対応した取組など、感染防止対策を徹底した上で、感染状況等を見極めながら事業の推進を図っています。感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたところであり、今後はコロナ禍の影響で実施が見送られたイベント等も含め、事業の目的を達成するための効果的な取組を積極的に行っていきます。</p> |
| 2 | 挽野実之委員 | <p>コロナ禍での正当な評価がしにくいものがあります。ぜひ令和5年度の状況を精査したいと思います。</p> | <p>コロナ禍の影響により、実施できなかった取組も多々ありましたが、感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたところであり、国や県の動向を注視しながら、各種取組を推進していきます。</p> |
| 3 | 伊藤俊也委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト コロナの影響が長引いていることが伺える。広報について、気になることが1点、youtubeの動画サイトをみても、公式チャンネルというものが見当たらない。花火や各種の事業について、公式に動画を投稿し、宣伝することを考慮していただきたい。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 登山、トレッキング以外のアクティビティについては対応する予定はないのか。釣り、サイクリング、バーベキューなど様々なニーズがあると思うので検討していただきたい。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト youtubeの公式チャンネルについては、平成30年2月に全国花火競技大会「大曲の花火」実行委員会で開催しており、四季の花火を中心に随時動画を投稿しています。同チャンネルでは、花火の映像だけでなく、普段は見ることのできない花火の舞台裏など、花火にかける花火師の思いや情熱など、その魅力が詰め込まれた映像となっています。より多くの方にご覧いただけるよう周知に努めるとともに、内容の充実を図りながら、花火のまち大仙を積極的にPRしていきます。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 現在、太田地域において、自然・温泉・アクティビティ施設・文化財を活用した観光振興策の検討を進めているところであり、いただいたご意見を所管課と共有し、より一層地域の活性化につながるような取組を検討していきます。</p> |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|--------|---|--|
| 3 | 伊藤俊也委員 | <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 登録者数増加のため、窓口を増やす、イベントを増やすなどの取組をお願いしたい。SNSなどでこまめな発信（歩行による健康増進効果の発信など）を進めてはどうか。</p> <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業 今後伸びていく分野なので、研究成果の販売なども視野に入れて、力を入れてほしい。</p> | <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 登録者の申請窓口については、健幸まちづくり推進室のほか、各支所市民サービス課、各地域公民館、各健康増進センターでの受付に加え、電子申請や郵送申請でも受け付けています。企業の健康経営の一助として企業への測定機器の導入支援や個別の働きかけを行っているところ、イベントについては、コロナ禍の影響により、その多くが中止を余儀なくされましたが、感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたところであり、今後はコロナ禍の影響で実施が見送られたイベント等も含め、事業の目的を達成するための効果的な取組を積極的に行っていきます。また、歩数に応じた健康増進効果もチラシやホームページなどで周知を行っていますが、SNSの活用や活動量・測定データの分析・活用を図りながら、より市民の皆さんがメリットを感じられる情報の提供や取組を行い、参加者数の増加につなげていきます。</p> <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業 本市の基幹産業である農業は、生産者の高齢化や担い手不足をはじめ、様々な課題を抱えています。こうした課題を解決するとともに、生産性を向上させ、持続可能な農業を実現するためには、スマート農業の推進が重要な鍵になるものと期待しています。スマート農業の推進にあたっては、それぞれの地域の特性にあわせた技術の確立が重要であることから、本事業のほか、令和4年度に連携協定を締結したクボタグループや農研機構など、関係団体と連携を図りながら取組を進めていきます。</p> |
| 4 | 石田常盤委員 | <p>コロナ禍により観光客がなかなか増えないのは仕方ないと思います。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 自然豊かな大仙市ですので、もっと推し進めてもらいたいです。河川も多いので、川下り（カヌー）など、多彩な事業を計画できないでしょうか。</p> | <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 現在、太田地域において、自然・温泉・アクティビティ施設・文化財を活用した観光振興策の検討を進めているところであり、いただいたご意見を所管課と共有し、より一層地域の活性化につながるような取組を検討していきます。</p> <p>また、太田地域のみならず、本市の有する豊かな自然を活かした取組を引き続き検討・実施していきます。</p> |
| 5 | 工藤浩一委員 | <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト まだまだ市民への理解は低いと感じている。しかし官民連携で成果目標をしっかりと掲げ日本一健幸なまちづくりを推進していくことはとてもいいと思う。今後市民に広く理解され活用されていく事を期待します。</p> | <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 本プロジェクトについては、ホームページや広報等を通じて周知を行っており、参加者数は着実に増加していますが、より多くの方に参加いただけるよう、本プロジェクトの意義に加え、介護リスクの低減や健康寿命の延伸、医療費や介護費用の削減など、本プロジェクトへの参加で見込まれる効果を積極的に発信するとともに、ウォーキングイベントをはじめ、楽しみながら活動できる環境づくりを進めるなど、引き続き日本一健幸なまちを目指していきます。</p> |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|--------|--|--|
| 6 | 杉山武志委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト いろいろな事業を計画・実施したと思いますが、コロナ禍で思い通りにはできなかったと思います。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 来年度は計画通り実施できることを期待します。</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 登録者も多く皆がいきいきと参加していますばらしいと思います。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト コロナ禍の影響により、実施できなかった取組も多々ありましたが、感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたところであり、国や県の動向を注視しながら、各種取組を推進していきます。</p> |
| 7 | 田村誠市委員 | <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業 基地局の設置は助かります。創出事業については、令和2年度からの事業で実績値のデータが少ないのでコメントはしづらい。 スマート農業の基本的な考えは、生産者にとって作業の軽減になることと、経費の削減になること（導入する機械の購入費が高く経営を圧迫しないこと）の2つとっております。これから高齢化に伴いどの作業が大変になるか、水田農業では、ドローンの活用が不可欠。田植え機、トラクター、コンバイン作業ではどの作業が重荷になるのか。やはりトラクター作業ではないか。10haくらいの面積であれば重荷にならず作業できますが、100ha規模になると重労働が続きます。自動運転化を望みます。管理面では高齢者は草刈り作業ができなくなります。自動草刈り機を導入した場合の問題点。畦畔の整備が必要、排水口や暗渠排水管の凸凹をなくすなど、関係者との相談が必要。</p> | <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業 本市の基幹産業である農業は、生産者の高齢化や担い手不足をはじめ、様々な課題を抱えています。こうした課題を解決するとともに、生産性を向上させ、持続可能な農業を実現するためには、スマート農業の推進が重要な鍵になるものと期待しています。スマート農業の推進にあたっては、それぞれの地域の特性にあわせた技術の確立が重要であることから、本事業のほか、令和4年度に連携協定を締結したクボタグループや農研機構など、関係団体と連携を図りながら取組を進めていきます。 また、スマート農業の推進には、農業者の皆さんの理解や現場への積極的な導入も重要となっており、市では農業用ドローン導入への支援に加え、令和5年度からは新たに農業機械のスマート農機化に対する支援も行うこととしており、こうした支援制度を活用いただきながら、スマート農業を推進していきたいと考えています。</p> |
| 8 | 元吉峯夫委員 | - | - |
| 9 | 鈴木直樹委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト 花火は基本的に単日イベントである。その花火を産業として捉えるには、周到な方針が必要である。情報発信の数値化や認知度の数値化などを図り、それを活用する手立てを事業とすべき。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト 花火産業構想は、本市最大の地域資源である「大曲の花火」のブランド力を最大限活用し、工業や観光、商業、農業など様々な分野にまたがる発展軸を形成し、地域を元気にしようとする、これまでにない新たな概念の産業振興方策と定義したもので、現在は、第2期構想のもと取組を進めております。 観光分野では、他の観光資源と組み合わせたツアーの実施など、市内の周遊や複数日の滞在を促し、地域の経済波及効果を生んでいます。また、農業分野では、花火ダリアや花火用マツ炭の開発、商業分野では、花火に関する商品の開発・販売、さらに教育的な要素として修学旅行のプログラムにプライベート花火や模擬花火玉づくりなどの体験型コンテンツを取り入れるなど、様々な分野との連携により花火を核とした本市の発展に大きく寄与しており、花火産業は地域の産業として定着しつつあると捉えています。今後も様々な分野との連携を図りながら取組を進めていきます。</p> |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|--------|---|---|
| 9 | 鈴木直樹委員 | <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 大仙市の地の利を利用できる企画と思うが、日本全国どこでも対象となるし、もっと素晴らしい自然を有する自治体もある。(湯沢市・北秋田市・男鹿市など) 大仙市ならではの独自性が活きる企画は何であろうか。</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 「株式会社タニタ秋田」がある大仙市ならではのヘルスケア事業である。この方針を発展させて、医療機械や薬の会社を誘致できれば良い。また、農林水産業を健康に特化させたり、飲食関連事業を健康をテーマに構築するなど対象となる事業に幅を持たせれば、一層「健幸まちづくりプロジェクト」に厚みが出ると思う。</p> <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業 農産物の安心安全や省力化による労働力の軽減・若い世代の農業への参入・新たな農作物の生産など、収益性が高く大きな可能性がある。ぜひ、どこにでもあるような施策でない大仙市の独自性に期待します。生産から販売までの一貫した収益性の高いモデルを構築していただきたい。</p> | <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 本事業は、本市の有する豊かな自然を舞台にした、県や美郷町と連携した取組となっております。ご意見のとおり、豊かな自然を有する自治体は他にもたくさんあることから、他自治体との差別化を図るには、各地域独自の地域資源を取り入れながら取組を進めていくことも重要でありますので、大仙市ならではの取組について今後も検討していきたいと考えています。</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 本プロジェクトでは、将来的に活動量データを活用して、ヘルスケア産業の企業誘致や地元企業の参入につなげていくことも目指すべき将来像の一つに掲げていますので、より多くの参加者を得ることで、そうした産業が集積する事業環境を形成していきたいと考えています。また、健康の維持増進には、継続的な運動だけでなく、食習慣の改善も重要な要素であることから、本市の特産品を活用したメニューの提供などの取組も進めていく予定としていましたが、コロナ禍の影響などにより、実施を見送っている状況にあることから、改めて関係者と協議を行い、取組を進めていきたいと考えています。 本プロジェクトは健康増進のみを目的としたものではなく、様々な分野との連携により、本市の発展につなげていこうとする取組でありますので、今後も様々な分野との連携を図りながら取組を推進していきます。</p> <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業 前述のとおり、農業は様々な課題を抱えており、スマート農業はその課題解決に大きな効果が期待されることから、早期にスマート農業モデルを確立していく必要があります。それにより、労働力の軽減や生産性の向上を図りながら、関係機関とも連携し、高収益作物の作付を促進するなど、本市農業の持続発展につなげていきます。</p> |
| 10 | 島村和彦委員 | — | — |
| 11 | 伊藤慎一委員 | <p>現在推進している4つの事業については順調に進んでおり、KPI設定の面からも意欲的な目標設定となっておりますが、目標達成に向けて順調に推移していると思います。</p> <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト 花火を中心としたブランド化についてはすでに国内外に向けて高く評価された花火ブランドを展開する上で、オンラインを活用した取組や食を通じた花火イメージとの連携を行ったファンへのエンゲージメント、花火の製造をリアルタイムで見学するなど価値共感の提供などブランディング展開も検討すると良いと考えます。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト 大曲の花火については、国内はもちろん、海外でも高い評価をいただいております。名実ともに日本有数の花火大会の一つであると捉えています。花火のイメージや価値向上に向けてはPRを含め様々な取組を行っており、その一環として、花火会社での工場見学受け入れや、はなび・アムにおいては大型ディスプレイで疑似体験をできる花火工場バーチャル見学など、花火製造の見学をできる環境を整えています。このほか、プライベート花火や模擬花火玉づくりなど体験型の取組なども通じて、さらなるブランディング展開を図ってまいります。</p> |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|--------|--|---|
| 11 | 伊藤慎一委員 | <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>アウトドアにおける活動は経験主体、応援消費、ダイエット等体調管理、など参加動機がそれぞれ違うので、環境整備と顧客の求めるサービスのリサーチが重要であると考えます。子育て世代との連携、高齢者向け健康維持など、すべてに対応できるような広い視野での対策を試みておられますが、少しターゲットも意識することで先のKPIにつながるかも知れないと考えます。</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト</p> <p>健康維持に重要な取り組みなのでこのまま継続されることを希望します。マスクの着用における外部の目とウォーキングの積極率には相関があることが先行研究でも示されているので、さまざまな情勢の動きも見つ大仙市なりのウォーキング用マスクの指針提案なども行いながら健康維持のために当該事業が益々進むことを期待します。</p> <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業</p> <p>秋田県立大学や農業試験場との連携が十分になされ、益々活性化していくことが期待されます。地域団体商標の取得など地域名の入ったブランディング作物（大仙トマトなど）ができ、新しい産業の高度化のきっかけになることを期待しています。</p> | <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>ご意見のとおり、アウトドア活動の目的は人それぞれ異なることから、ターゲットに合わせた取組を行っていくことが重要であると考えておりますが、まずは真木・真昼県立自然公園や当該公園を舞台とした取組を広くPRし、より多くの方に地域の魅力を知り、体験していただきたいと考えています。そのうえで、機会を捉えてニーズを把握し、ターゲットを意識した効果的な取組を検討していきます。</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト</p> <p>本プロジェクトは健康増進のみならず、様々な分野との連携により本市の発展につなげていくとする取組であり、参加者数は着実に増加しています。引き続きより多くの方に参加いただけるよう、本プロジェクトの意義や健康への好影響など、本プロジェクトへの参加で見込まれる効果を積極的に発信するとともに、ウォーキングイベントをはじめ、楽しみながら活動できる環境づくりを進め、参加者の主体的な行動も促し継続率向上につなげながら、日本一健幸なまちを目指していきます。</p> <p>また、ウォーキングを行う際、外部の目を気にされる方もいると伺っていますので、様々なご意見やニーズを把握しながら取組を推進していきます。</p> <p>④秋田版スマート農業モデル創出事業</p> <p>スマート農業の推進については、本事業の推進のほか、令和4年度に協定を締結したクボタグループとの連携を図りながら、本市農業の持続発展に向け取組を進めていきます。</p> <p>また、作物のブランディングにつきましては、総合戦略や「第4次大仙市農業振興計画」、「農業と食に関する活性化基本構想」に地場農畜産物のブランド化とその確立、発信などについて記載した上で取組を進めており、引き続き関係団体と連携を図りながら取組を推進していきます。</p> |
| 12 | 鈴木幹委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>日本に誇る大曲の花火をアピールする機会の喪失は、市の観光業に従事する労働者にとっては重大な損害を被ることになる。コロナ感染の安全対策に留意するとともに、観光業や飲食店等の支援を行うよう対策していただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策として、外出規制や移動規制等により、県内の交通運輸、観光業などは大きな打撃を受けている。運転業務に関わる労働者の賃金が低迷化していくことから、公共交通の安全性や利用促進、観光需要の早期回復に向けたPRを実施し、運転業務に関わる労働者の賃金上昇をするための施策を行うよう国や県とともに対応していただきたい。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>コロナ禍の影響により、観光業や飲食店は多大な損失を受けており、本市では新型コロナウイルスの経済対策として、飲食店等の経営支援や宴会場施設の運営支援、宿泊業の支援、タクシーや自動車運転代行事業者など観光交通事業者への支援など、観光業に関わる事業所等へ必要な支援を適時適確に実施しています。</p> <p>新型コロナウイルスについては、感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたことから、今後は国や県の動向を注視しながら、各種取組を推進し、地域経済の回復とさらなる活性化を目指していきます。</p> |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|--------|--|--|
| 13 | 佐藤圭司委員 | 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあることから、目標未達はやむを得ない面があり、客観的な評価は難しい。少なくとも令和4年度は前年比プラスと目標乖離の縮小に向けた取組への注力が必要と考える。 | コロナ禍の影響により、実施できなかった取組も多々あり、進捗に大きな遅れが生じています。今後は、感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたことから、国や県の動向を注視しながら、各種取組を推進していきます。 |
| 14 | 木藤康嗣委員 | 引き続き発信に力を入れた活動に期待。 ②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 アウトドア・アクティビティ展開として、大仙美郷の温泉施設活用も含めて、対応を検討してほしい。 | ②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 事業の推進にあたっては、様々な地域資源や他分野との連携により、相乗効果を発揮しながら取組を進めていくことが重要であると考えており、今後も様々な連携を図りながら取組を進めていきます。 |
| 15 | 小原庸補委員 | — | — |
| 16 | 佐藤一委員 | — | — |
| 17 | 佐渡敏夫委員 | — | — |
| 18 | 吉田範子委員 | ②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 親子トレッキング＆山登り教室は、引き続き継続開催でいいのではと思います。 ③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により行事を実施できないことはありますが、引き続き事業開催をお願いいたします。 | ②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業 本事業は、本市の有する豊かな自然を活かした取組となっており、その魅力を十分に発揮できる効果的な取組であると考えています。今後も本市の豊かな自然を舞台とした様々な取組を検討・実施していきます。 ③大仙市健幸まちづくりプロジェクト コロナ禍の影響により、実施できなかった取組も多々ありましたが、感染症法上の分類見直し方針が決定されるなど、平時への移行に向けた道筋が示されたところであり、国や県の動向を注視しながら、各種取組を推進していきます。 |
| 19 | 遠藤まき委員 | ③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 日本で初めての試みである市民一体で健康促進に努めている市をもっとアピールし、市民にも定着できるプロセスが必要なのではないか。 | ③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 本プロジェクトは、令和4年度に選定を受けた「SDGs未来都市」を推進するための計画において重点的な取組として位置づけており、また、企業版ふるさと納税の寄附対象事業としても積極的にPRを行っています。 歩くことを基本に、様々なイベントや健幸ポイントなどを通じ、無理なく楽しみながら取り組むことができるプログラムとなっていることから、プロジェクトの意義や健康への好影響など、各種媒体を活用した情報発信に努め定着を図っていきます。 |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|---------|--|--|
| 20 | 佐々木千秋委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>(1)総合戦略の進捗状況のKPI No.30 (外国人宿泊者数) とリンクしますが、世界に発信するHANABIのまち大仙は、大きなプロジェクトになっていますが、最近、地域協議会の活動ではなび・アムを見学した際に、大変すばらしい施設であり、ガイドを務めてくださった方も本当にわかりやすいご説明と、花火への情熱を感じました。</p> <p>しかし、展示に関しての外国語表示が皆無に近い不十分な状態に驚きました。インバウンド誘客は、昨今のコロナ禍の影響により厳しい状況が続いていますが、外国人観光客対応はまだ課題を感じました。外国人観光客に限らず、花火大会への誘客にはぜひはなび・アムも有効利用し、もっともつと広めていくべきだと感じました。また花火グッズなどの販売に関しても良い品があるのに、販売意欲が全く感じられません。大仙市の全ての活動に共通して言えることですが、「素晴らしい素材を活かす腕の良い料理人不足」をいつも感じています。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>インバウンド誘客の促進は、多言語表示やWi-Fi環境の充実、キャッシュレス化など、受入環境を整えることが大変重要と理解しています。コロナ禍の影響が緩和してきていることから、インバウンドも含めた観光客の増加に向け、すべての人が見学しやすい環境の整備に努めていきます。</p> <p>また、グッズなどの販売につきましては、主に大仙市観光物産協会において取組を進めており、花火大会などのイベント開催時の出店のほか、はなび・アム駐車場内に「Bium Shop (ビウムショップ)」を期間限定でオープンし、はなび・アム見学者などの利用を想定した物販など、機会を捉えて様々な取組を行っています。今後も販売促進につながる効果的な取組を検討・実施いただくとともに、ご指摘の「料理人」となり得る団体や事業者等との連携も模索していきたいと考えています。</p> |
| 21 | 北野悟委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>資料2の3ページの表について、「増加分」の基準値における実績は「0」または空欄にした方がよいと思われる。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>令和4年度までとなっているが、アウトドア・アクティビティについては大仙市及び美郷町の他、仙北市においては田沢湖周辺での取組が顕著であることから仙北市を含めた近隣市町との連携により、当該エリアでの周遊時間を増やし、地域経済に寄与させる取組をしても良いと思われる。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</p> <p>ご指摘のとおり、増加分の基準値における実績は空欄にさせていただきます。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>本事業は、本市と美郷町の東部に跨って位置する「真木真昼県立自然公園」を舞台とした取組であります。大仙市、仙北市、美郷町は古くから地形的・文化的に密接な結びつきがあり、様々な面で連携を図ってきていますので、今後は、圏域での連携も視野に入れながら、より一層取組を推進していきたいと考えています。</p> |
| 22 | 佐藤正治委員 | - | - |
| 23 | 福原尚虎委員 | - | - |

| No | 委員名 | 意見 | 市の考え方等 |
|----|-------|--|---|
| 24 | 佐藤務委員 | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト 中国・台湾・タイ・韓国への商品・観光PRについては、そもそもリスクが高い地域を選択したと思える。観光入込客数が微増で経済効果が増加、外国人観光客減少で宿泊者数減少と、人数の増減により事業内容が大きな影響を受けることから、SNS等による情報発信を通しての、個人客の呼び込みや物品のネット販売にも着目した観光客誘致を考える必要があるのではないかと。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 今後の成長産業となり得る、「自然」と「健幸」が今後、高齢化社会を見据えたコミュニティ形成の骨格を成すことにより、住みやすい地域と情報発信することにより、県外移住者の増加に繋がるのではないかと。</p> | <p>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト コロナ禍前の2019年の国・地域別の訪日外国人旅行者数の上位を見ると、中国、韓国、台湾、香港、米国、タイの順となっており、このうち米国を除いた5か国では全体の7割以上を占め、アジア全体では8割以上を占めています。インバウンドの取り込みには、アジア圏など訪日客の割合が大きく、消費が旺盛な地域に重点を置くことが効果的であると考えターゲットとしたところです。また、令和3年にはフランスのテレビ局を通じた花火・観光情報の発信を行っており、今後もSNS等を活用したPRやネットを活用した物販なども含め、より一層取組を進めていきます。</p> <p>②アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業</p> <p>③大仙市健幸まちづくりプロジェクト 東洋経済新報社が毎年発表している「全国住み良さランキング」において、本市は県内で毎年上位にランキングされており、令和4年は県内トップの評価をいただいています。「自然」と「健幸」は本市の強みであり、SDGsやGXなどの世界的な潮流や、人生100年時代に突入した現代において重要な要素であることから、こうした優位性を地域づくり、まちづくりに活かしていきたいと考えています。今後も本市の住み良さ等のPRも図りながら、住み良さを実感できるまちづくりを総合的に進め、移住者の増加など本市の発展につなげていきます。</p> |